

経済学部A方式I日程・社会学部A方式I日程・現代福祉学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～16	日 本 史	18～31
世 界 史	32～51	地 理	52～63
数 学	64～69		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. **数学**は以下の注意事項に従うこと。
 - ・ 解答用紙の所定欄の受験学部を○で囲むこと。
 - ・ 解答はおもて面と裏面の所定の位置に、上下の方向に気をつけて記入すること。
 - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

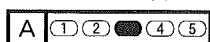
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

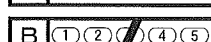
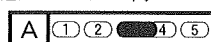
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

今から1万2千年以上前、アジアと地続きであった [1] 付近を通って、人類は北米に到達した。彼らは [A] を生業としながら南進し、やがて南米まで拡散した。その後、農耕や牧畜の発達とともに定住化・人口増加が進み、文明の成立をみることになった。現在の [2] から中央アメリカにかけての [3] 文明圏では、オルメカ、 [4] , マヤ、アステカなどの諸文明が盛衰した。南米太平洋側の [5] 文明圏では、 [6] , モチカ、ティワナク、チムー、インカなどの興亡がみられた。これら2つの文明圏では [B] 器は知られていなかった。穀類であり聖なる食べ物ともされた [あ] , 後にアイルランドやドイツで貧農の主食となった根菜である [い] の他にも、サツマイモ、ピーナッツ、トマト、トウガラシなど、今日の世界各地で広く食されている作物が生み出された。一方、大型の家畜は [5] のリヤマとアルパカ程度であった。 [3] では [7] 半島を中心に栄えたマヤ文明にみられるように [C] が発明されたが、 [5] の人々は [C] を持たず、数量を記録できるキープという道具が使われた。

こうしてヨーロッパやアジアなど「旧大陸」からの影響を受けることなく独自に発展してきた「新大陸」諸文明は、15～16世紀にヨーロッパから航海者、探検家、「征服者」達が続々と乗り込んで来て、未曾有の危機を迎えることになる。このとき、 [3] 文明圏では [8] を首都とするアステカ王国が繁栄していたが、「征服者」 [I] らによって1521年に滅ぼされた。 [5] 文明圏では [9] を首都とするインカ帝国が広大な勢力圏を誇っていた。しかし、スペインの [II] によって皇帝 [III] が捕縛され、1533年に征服された。

「新大陸」におけるスペイン支配体制の中心であった現在の [2] とペルーにあたる地域では、植民地時代がおよそ300年間も続くことになった。その他の地域も含め「新大陸」の文化・社会は一変した。土着の宗教が禁止され、その神殿

や神像は破壊された。スペイン系男性と先住民女性の間にメスティーソと呼ばれる混血が次々に生まれた。先住民はエンコミエンダ制やアシエンダ制に組み込まれた。またアフリカから奴隷が輸入され、特に16世紀以降、ポルトガル領ブラジルにおいて のプランテーションで大規模に酷使された。このアフリカ系住民は、後に中南米各地の音楽やダンスに大きな影響を及ぼすこととなる。スペイン側の聖職者には私利私欲に走る者もいたが、「インディアスの破壊に関する簡潔な報告」を著した のように先住民の権利擁護に奔走する人物も現れた。様々な犠牲を出しながら「新大陸」の富はヨーロッパへと流れていった。現在の に位置し に発見されたポトシ銀山を筆頭とする「新大陸」各地の銀山では、多くの先住民が厳しい鉱山労働に従事させられ、採掘された大量の銀がヨーロッパに持ち込まれた。また「新大陸」産の銀の一部はアカプルコ貿易にも用いられた。

問1 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| a アクスム | b アマゾン | c アンデス |
| d エクアドル | e クスコ | f コロンビア |
| g ジブラルタル海峡 | h セウタ | i チャビン |
| j チャンチャン | k テオティワカン | l テノチティトラン |
| m ニカイア | n プエブロ | o プランバナナ |
| p フロリダ | q ベーリング海峡 | r マゼラン海峡 |
| s マチュ=ピチュ | t メキシコ | u メサ=ベルデ |
| v メソアメリカ | w メソポタミア | x ユカタン |
| y ラプラタ | z リマ | |

世界史

問2 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|--------|---------|--------|
| a 灌漑農耕 | b 金属 | c 言語 |
| d 交易 | e 狩猟・採集 | f 石造建築 |
| g 鉄 | h 土 | i 文字 |

問3 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|---------|--------|
| a 胡椒 | b ゴム | c 小麦 |
| d サトウキビ | e ジャガイモ | f タバコ |
| g トウモロコシ | h 綿花 | i ヤムイモ |

問4 空欄 から に当てはまるもっとも適切な人名を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------------|------------|
| a アタワルパ(アタウアルパ) | b イサベル |
| c クワウテモク | d コルテス |
| e シモン=ポリバル | f トウパク=アマル |
| g トスカネリ | h バルボア |
| i ピサロ | j フェリペ2世 |
| k マンサ=ムーサ | l ラス=カサス |

問5 空欄 と を埋める組み合わせとして、正しいものを次の選択肢から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------------|---------------|
| a チリ北部 -15世紀 | b チリ北部 -16世紀 |
| c ペルー南部 -16世紀 | d ペルー北部 -17世紀 |
| e ボリビア南部-16世紀 | f ボリビア北部-18世紀 |
| g メキシコ中部-16世紀 | h メキシコ中部-17世紀 |

問6 下線部(1)に関して、次のア～エのうち、エンコミエンダ制に関する説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア スペイン国王に先住民の統治を委任されたスペイン人植民者らは、先住民を労働力として使役する権利を得る一方でカトリックへ改宗させる義務を負った。

イ ローマ教皇から先住民とアフリカ系の人々の統治を委託されたスペイン人植民者らは、彼らを奴隷として所有する権利を得る一方でカトリックへ改宗させる義務を負った。

ウ 借金で拘束された先住民が、返済のために商品作物を栽培する大農園で使役された。

エ 大農園主であるスペイン人植民者と小作契約を結んだ先住民は、法律上は自由であったが経済的には大農園主に隷従することになった。

問7 下線部(2)に関して、次のア～エのうち、アフリカから中南米に輸入された奴隷に関する説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ヨーロッパからもたらされた伝染病などによって先住民人口が激減したため、代替りの労働力としてアフリカから奴隷が輸入された。

イ 農園や鉱山などでの酷使によって先住民人口が激減したため、代替りの労働力としてアフリカから奴隷が輸入された。

ウ スペインはポルトガルやイギリス等の商人と契約し、西アフリカから中南米へ奴隷を輸入した。

エ スペインは西アフリカのスペイン植民地で奴隷を得て、中南米の各地へ輸出した。

世界史

問8 次のア～エのうち、下線部(3)の結果に関する説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 貿易ルートが変わったため、リスボンやアントウェルペン(アントワープ)が衰退した。

イ 貿易ルートが変わったため、西アフリカのソンガイ王国が繁栄した。

ウ ヨーロッパでは物価が下落し、金利上昇により毛織物業など商工業が低調となった。

エ ヨーロッパでは物価が上昇し、固定額の地代収入に依存する領主層が没落した。

問9 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、アカプルコ貿易(ガレオン貿易)の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 「新大陸」産の銀がメキシコのアカプルコからガレオン船でマレー半島のマラッカへ運ばれ、アジア産の絹・綿布・陶磁器などと交換された。

イ 「新大陸」産の銀がメキシコのアカプルコからガレオン船でフィリピンのマニラへ運ばれ、アジア産の絹・綿布・陶磁器などと交換された。

ウ 「新大陸」産の銀がメキシコのアカプルコからガレオン船で西アフリカへ運ばれ、ここで購入された奴隷が中南米各地へと輸出された。

エ 「新大陸」産の銀がメキシコのアカプルコからガレオン船でスペインへ運ばれ、ここで購入された武器・装身具・綿布などが西アフリカへ輸出された。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

ヨーロッパ中世世界が生まれたのは、教皇レオ3世が、の子であるカール大帝にローマ皇帝の帝冠を与えた800年だと考えられている。ここでローマ教会はビザンツ皇帝への従属から独立し、地中海世界は、西ヨーロッパ世界、東ヨーロッパ世界、イスラーム世界の三つに分かれて、独自の歴史を歩むこととなる。

カール大帝の死後、フランク王国は条約(843年)で3国に分割され、ルートヴィヒ1世の長子であるが中フランクを相続した。の死後、その領地は分割相続され、870年の条約によって、西フランク・東フランク・イタリアの3つの王国に再分割された。イタリアでは家が9世紀に断絶し、諸都市は独立する傾向をもった。西ヨーロッパはイスラーム勢力やノルマン人の攻撃を受けたが、商業は活発化した。ノルマン人は、8世紀ごろから各地に定住して都市の形成を助けた。を首領とするノルマン人の一派は、スラブ地域に進出し、9世紀にノヴゴロド国を建設した。が率いた一派はセーヌ川河口に定着し、ノルマンディー公国をたてた。また、1066年には、ノルマンディー公が、の戦いでイングランド軍を破り、ノルマン朝を開いた。地中海に進出した一派はシチリア島を獲得し、1130年、南イタリアとあわせて、を創立者とする両シチリア王国を建国した。両シチリア王国は、1282年の反乱で、シチリア王国と王国に分裂した。

このように西ヨーロッパ世界は独自の道を歩みだしたものの、その文化には、イスラーム世界の影響もみられる。シチリア島などでは、ギリシアの古典やアラビアの学術書がラテン語に翻訳されるようになり、西ヨーロッパはそれに刺激を受けて学問が大いに発展した。とくに、アリストテレス哲学の影響を受けたスコラ学が発展し、それを支えたのが都市の成長とともに12世紀頃から各地に誕生した大学であった。また、12世紀に西欧医学教育で名声が頂点に達し、13世紀に大学となった大学は、イスラーム医学を取り入れた医学校が前身であった。中世は、ヨーロッパ各地に大学が生まれた時代でもある。

(2)

世界史

東ヨーロッパでは、ビザンツ帝国の首都であったコンスタンティノープルが、7世紀以降、東西交易の中心となり、たびたびイスラーム勢力の攻撃的となった。13世紀には、ヴェネツィア商人の援助によって派遣された第 あ 回十字軍がビザンツ帝国のコンスタンティノープルを占領し、ラテン帝国を建てた。その後、ヴェネツィアと C は地中海の覇権を争い、これらの都市が商業上の拠点とした海港都市には東方貿易(レヴァント貿易)によって香辛料、絹織物、宝石など奢侈品がもたらされた。しかし1453年には、オスマン帝国⁽³⁾がコンスタンティノープルを攻略してビザンツ帝国を滅ぼし、ここに首都を移した。オスマン帝国は、ヨーロッパ・アジア・アフリカにまたがる大帝國に発展し、その首都は渡来する各国使節や商人でにぎわい、世界でも有数の金融・商業の中心となり、最先端の情報および技術が集まる町となった。

中世ヨーロッパで、地中海商業圏について栄えたのが、北海、バルト海を中心とした北ヨーロッパ商業圏である。その代表的な都市として、北ドイツでは、のちにハンザ同盟の盟主となった D , フランドル地方では、ハンザ同盟都市で毛織物工業や商業の中心地として繁栄したが、15世紀以降アントウェルペン(アントワープ)にフランドル経済の中心の座を奪われた E があげられる。イギリスではイングランドの中心都市でアングロ=サクソン時代以来の商業上の要地である F が、一時はハンザ同盟の一員であった。さらに、これら二つの大商業圏を結ぶ内陸の通商路にも都市が発達し、とくにフランスのシャンパーニュ地方は定期市で繁栄した。また南ドイツでは15~16世紀には、鉱業や金融業で巨富を得たフッガー家の商業活動により、ヨーロッパの商業・金融業の中心都市として発展した G が有名である。

こうした中世都市は、はじめは封建領主の保護と支配を受けていたが、商工業が発達するとしだいに領主支配からの自由と自治を求め始めた。11~12世紀以降、各地の都市はつぎつぎに自治権を獲得し、自治都市になった。⁽⁴⁾

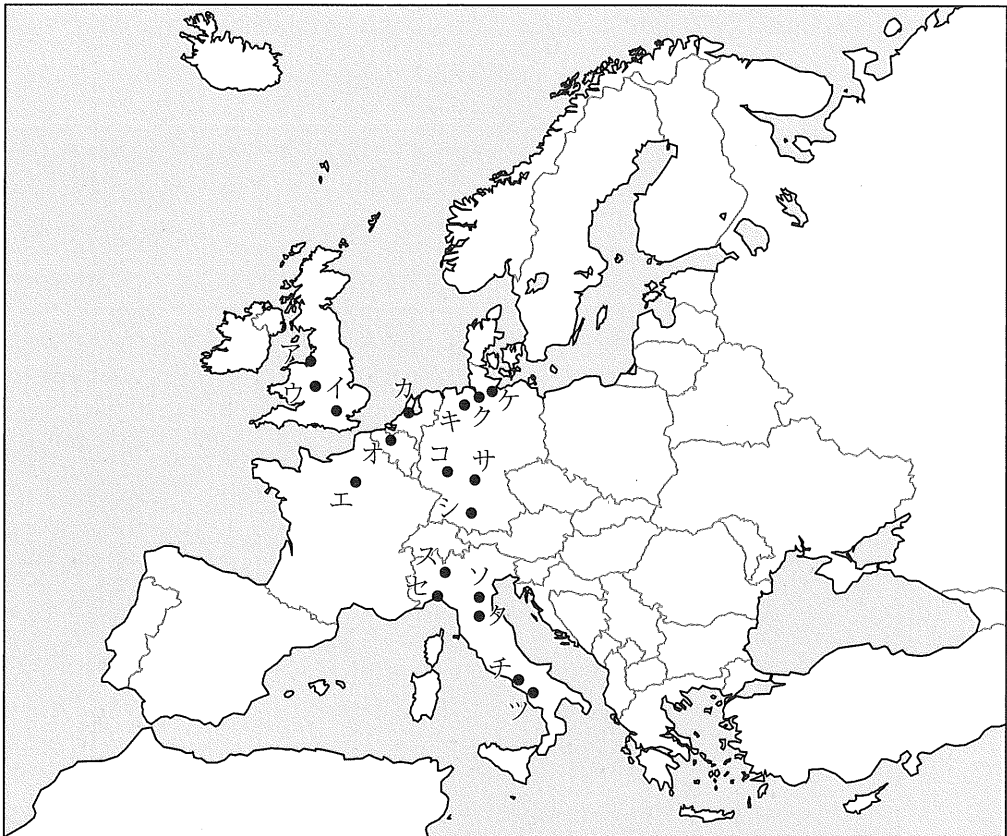
問1 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------------------|----------------|
| a アルクイン | b アンセルムス |
| c ウィリアム | d ヴェルダン |
| e ウラディミル1世 | f エグバート |
| g オドアケル | h カヌート(クヌート) |
| i カペー | j カール=マルテル |
| k カロリング | l キヴィタス(キウイタス) |
| m キュリロス | n クローヴィス |
| o シャルル | p ピピン |
| q ヘイスティングズ(ヘースティングス) | |
| r ミュンツァー | s メルセン |
| t メロヴィング | u リューリク |
| v ルッジェーロ2世 | w レイフ=エリクソン |
| x レヒフェルト | y ロタール |
| z ロロ | |

世界史

問2 空欄 **A** から **G** に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢 a～r から選び、その記号を解答欄にマークせよ。また、選んだ語句はすべて現在の都市名として存在している。それらの位置を下の地図上のア～ツから探し、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------|----------------|
| a アウクスブルク | b アムステルダム |
| c サレルノ | d ジェノヴァ |
| e ナポリ | f ニュルンベルク |
| g バーミンガム | h パリ |
| i ハンブルク | j フィレンツェ |
| k フランクフルト | l ブリュージュ(ブルッヘ) |
| m ブレーメン | n ボローニャ |
| o ミラノ | p リバプール |
| q リューベック | r ロンドン |



問3 空欄 に当てはまるもっとも適切な数字を以下の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a 1 b 2 c 3 d 4 e 5

問4 下線部(1)に関して、次のア～オのうち、カール大帝が行ったことの説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フランク王国で、カール大帝は、各地の有力支配者を伯と呼ばれる地方長官に任命し、王直属の巡察使に監督させた。

イ 東ゲルマン人の一部族がオーデル最上流域から北イタリアに移動して建国したヴァンダル王国は、774年にカール大帝に滅ぼされた。

ウ 北ドイツ海岸部のゲルマン人の小部族であったザクセン人は、7世紀頃から東北ドイツの大部族となり、フランク王国を脅かしたが、カール大帝に制圧され服属した。

エ 遊牧民であるアヴァール人は、6世紀ごろ中央アジアからドナウ流域に定住したが、カール大帝に攻撃され、のち、スラブ人やマジャール人などに同化した。

オ カール大帝の宮廷を中心にカロリング＝ルネサンスが開花し、キリスト教文化を発展させる動きの一つとなった。

世界史

問5 下線部(2)に関して、次のア～オのうち、中世ヨーロッパに設立された大学に関する説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 中世の主要な大学には、神学、法学、医学の3学部があり、一般教養科目として、人文科学系の文法・修辞・弁証(論理)、自然科学系の算術・幾何・天文・音楽の7自由学科がおかれた。

イ ポローニャ大学は、11世紀に設立されたと記録される大学で、ローマ法研究で有名である。

ウ ウィーン大学は、14世紀後半、ハプスブルク家のルドルフ2世が創設した。

エ ケンブリッジ大学から学生と教師が分かれて13世紀に誕生したオックスフォード大学は、のちにイギリス宗教改革の中心になった。

オ 神学校から発したパリ大学は、カトリック信仰の維持強化に貢献し、トマス＝アキナス、ロジャー＝ベーコンなどが在籍したことでも知られる。

問6 下線部(3)に関して、次のア～エのうち、コンスタンティノーブル(イスタンブル)を首都としたオスマン帝国に関するできごとの叙述として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア スレイマン1世は、建築家ミマル＝シナンに、トルコ＝イスラーム建築の代表とされるスレイマン＝モスクを建てさせた。

イ メフメト2世時代に新宮殿として建設されたトプカプ宮殿は、19世紀なかごろまで皇帝の住居となっていた。

ウ 帝国内で公認された非ムスリムの宗教別共同体をミットトといい、各ミットト内では言語・宗教・習慣・裁判権などの自治が保証された。

エ 1569年にセリム3世がフランスと結んだ条約が先例となり、主にヨーロッパ諸国からの在留商人に、カピチュレーションと呼ばれる治外法権が与えられた。

問7 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、中世における都市の自治に関する
ことの説明として正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イタリアで成立した自治都市(コムーネ)は神聖ローマ皇帝直属の帝国都市であった。

イ “都市の空気は自由にする”とはイタリアのことわざで、農村出身の都市住民が、都市への居住によりそれ以前の隷属的身分を脱し、ある程度の自由を得たことを示している。

ウ 神聖ローマ皇帝は、特許状によって、皇帝直属となった自治都市にはすべて貢納と納税を免除する特権を与えた。

エ 神聖ローマ皇帝に対抗するために、北イタリアのロンバルディアの諸都市は同盟を結成した。

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

東南アジアという地域はアジアの東南部を指し、ユーラシア大陸の東南端にあたるインドシナ半島と、その東南方にある島嶼部によって構成されている。その範囲は、ASEAN とほぼ一致する。現在、ASEAN の加盟国は十か国であり、域内の人口は6億人を超えるという。これは EU よりも多い人口であり、人口増加率も高い水準にある。また、この地域は、古代以来、東西諸文明の交流の場として外の世界と絶えることなく接触してきた⁽¹⁾ため、先住諸民族のみならず、中国系・インド系・アラブ系の住民も多く、民族・言語・宗教の多様さは世界でも有数である。

しかし、これらの国々の大半が欧米列強による植民地支配から独立⁽²⁾を果たしたのは第二次世界大戦後のことであり、そこには長く多難な道のりがあった。

東南アジアの大半を西洋諸国が植民地化するのには、19世紀半ば以降であったが、ジャワ島は早くからその動きが進んだ。東南アジア島嶼部は、長い間、海域における東西交易の中心地として栄え、15世紀なかばにポルトガルがこの海域に勢力を伸長するなかでも多くのイスラーム王国⁽³⁾が発展した。しかし、16世紀末になるとオランダがこの海域に進出し、オランダ東インド会社領を拡大させていった。この会社が1799年に解散されると、その領土はオランダ政府直轄の植民地になり、1830年には東インド総督の が強制栽培制度を導入し、植民地的経済構造が確立されていった⁽⁴⁾。その後、オランダは長く抵抗していたイスラーム王国を20世紀初頭に平定し、広大なオランダ領東インド植民地を形成した。

東南アジア大陸部のタイでは、シラム湾北岸の港市国家として1351年に建国されたアユタヤ朝が強大になり17世紀に最盛期を迎えたが、ビルマで1752年に建国された によって1767年に滅ぼされた。その後、軍の指導者チャクリによって1782年に建国されたラタナコーシン朝は、中国向けの王室専売品の交易で繁栄したが、ラーマ4世の際に、1855年イギリスとのあいだに を締結し、続いてほかの欧米諸国とも同様の不平等条約を結び開放政策に転じた。その後、ラタナコーシン朝は、積極的に近代化政策を推進し、19世紀末以降の帝国主義の時代においても独立を維持したが、この王朝のその後の道のりは決して平た⁽⁵⁾

んではなかった。

ヴェトナム北部の大越では、1428年に建国された黎朝において、1527年に武将の莫登庸が帝位を奪い、莫氏政権が樹立されていたが、1592年には が莫氏を倒して黎朝を再興させ実質的に支配していた。しかし、黎朝の有力一族であった阮氏が16世紀後半ヴェトナム中南部に を立て、 に対抗した。18世紀末には の反乱が起こり、 と は倒されヴェトナムの統一が図られたが、その後、 がフランス人宣教師ピニョーらの支援を受けて、 の政権を打倒し、1802年に阮朝をたてた。阮朝は1825年にキリスト教の布教を禁止し、その後もキリスト教への迫害を強めると、フランスの はそれを口実に1858年にヴェトナムに出兵し、1859年にサイゴン一帯を占領した。フランスは1862年に阮朝とサイゴン条約を結び、1882年にはヴェトナム北部のトンキンを占領し、 締結で阮朝を保護国とした(1884年に確定)。その後、ヴェトナムの宗主権保持を主張する清朝とフランスのあいだで清仏戦争(1884～85)が起こり、イギリスの調停によって清朝がヴェトナムの宗主権を放棄すると、フランスは1887年にヴェトナムとカンボジアをあわせてフランス領インドシナ連邦を形成し、1893年には を保護国化し、1899年連邦に組み入れた。

イギリスは、18世紀末からインドを拠点にマラッカ海峡への進出をすすめるため、1824年にはオランダと を締結し、マラッカ海峡を境とする両国の勢力圏を確定させた。イギリスは、1826年にはマレー半島の三都市を海峡植民地として成立させ、1895年にはマレー半島の南部4つの保護国を連合マレー諸州とし実質的な植民地にした。その間、ビルマにおいては、19世紀はじめから とイギリスとのあいだで緊張が高まり、1824年に勃発した第一次イギリス＝ビルマ戦争以降、三回にわたる戦争が行われ、三回目の戦争(1885～1886)で はイギリスに滅ぼされた。

欧米諸国による苛酷な植民地開発によって、人々の社会生活が大きく改変させられると、東南アジア諸地域ではさまざまな抵抗運動が発生し、それは必然的に当該地域の「民族」としての意識の覚醒へと結びついていった。

フィリピンでは、1896年にフィリピン独立革命が勃発し、1898年には革命政府

世界史

が独立を宣言した。アメリカは革命派を支援したが、その後フィリピンの領有権を得ると独立を認めず、1899年に を大統領とするフィリピン(マロロス)共和国と戦争を開始して、フィリピンを植民地化した。インドネシアでは、19世紀末から1910年代にかけてさまざまな抵抗運動が起こり、独立や社会主義を掲げるようになっていった。⁽⁸⁾

ヴェトナムでは、仏領インドシナの形成当初から、官吏や村落の有力者を中心に武装抵抗が行われ、20世紀初頭になると、 らが日本に留学生を送る東遊運動を展開した。その後、 は辛亥革命に大きな刺激を受け、1912年に広州で を結成して独立運動をさらに急進的に進めていった。

第一次世界大戦の時期、植民地支配を受けていたアジア・アフリカの諸地域では「民族自決」を求める機運が高まった。しかし、欧米諸国はこれらの地域の独立を認めることはほとんどなく、東南アジアにおける独立運動もことごとく弾圧された。それでも、1920年代から30年代にかけて、東南アジア諸地域では独立運動が活発に繰り返⁽⁹⁾られた。

その後、アジア太平洋戦争の勃発とともに、東南アジア全域は日本による占領⁽¹⁰⁾の経験を経て戦後を迎えるも、東南アジア諸地域が欧米諸国の植民地支配から独立を獲得するには、まだまだ長い道のりが残されていた。

問1 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------------|-------------|
| a クディリ | b 広南王国 |
| c コンバウン朝 | d シュリーヴィジャヤ |
| e タウンゲー(トゥンゲー)朝 | f チャンパー |
| g パガン朝 | h バングラデシュ |
| i 東ティモール | j ベグー朝 |
| k ラオス | l ランサン王国 |

問2 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|--------------|
| a アギナルド | b カルティニ |
| c ギゾー | d 阮愛国 |
| e 阮福映(映) | f ゴードン |
| g 三藩 | h ティエール |
| i 鄭氏 | j 鄭成功 |
| k テイポ=ネゴロ | l ナポレオン3世 |
| m 西山 | n ホセ=リサール |
| o ホー=チ=ミン | p ボニファシオ |
| q ファン=デン=ボス | r ファン=ボイ=チャウ |
| s ラッフルズ | t 李氏 |
| u 劉永福 | |

問3 空欄 から に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| a アイグン条約 | b 維新会 |
| c イリ条約 | d 越南(ヴェトナム)光復会 |
| e クォック=グー | f サイゴン条約 |
| g 天津条約 | h ハーグ協定 |
| i フエ(ユエ)条約 | j ヴェトナム国民党 |
| k ボウリング(ボーリング)条約 | l ユトレヒト条約 |
| m ロンドン条約(イギリス=オランダ協定) | |

問4 下線部(1)に関して、次のア～エのうち、1世紀にメコン=デルタに成立し、マレー半島北部からベンガル湾岸に交易ネットワークを広げた港市国家の名前を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア クダ イ 真臘 ウ 扶南 エ 林邑

世界史

問5 下線部(2)に関して、次のア～クのうち、戦後に起こった以下の①～④の出来事の起こった年順として正しく並んでいるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 民主カンプチア樹立
- ② シンガポール独立
- ③ 東ティモール独立
- ④ ブルネイ＝ダルサラーム国完全独立

ア ①②③④ イ ②①④③ ウ ③④②① エ ④③①②
オ ①④③② カ ②③④① キ ③②①④ ク ④①②③

問6 下線部(3)に関して、次のア～エのうち、この時期に東南アジア島嶼部で繁栄した王国ジョホールに関する説明にあたるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 16世紀初頭にジャワ島西部に成立したイスラーム王国であり、胡椒貿易で栄えたが、オランダ東インド会社と競合して衰退し、18世紀中ごろオランダにより保護国化され、1813年に滅亡した。

イ ポルトガルに滅ぼされたマラッカ王国の王族がマレー半島南端に建設したイスラーム王国で、貿易拠点として繁栄したが、19世紀初めイギリスにシンガポールを割譲し、19世紀末にイギリスの保護国となった。

ウ マジャパヒト王国滅亡後、16世紀末にジャワ島中部を中心に建国されたイスラーム王国で、内陸部に中心を持つ農業国であった。17世紀後半から内紛とオランダの干渉が続き、18世紀中頃に分裂し、オランダの支配下に置かれた。

エ 15世紀末、スマトラ島西北部に建設されたイスラーム王国で、香辛料交易の中心として栄えた。1873年からのオランダとの戦争で長く抵抗し、1903年に国家が滅亡した後も、戦争は1912年まで続いた。

問7 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、オランダによって支配地域に作り出された植民地経済に関する説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 強制栽培制度では村落にコーヒー・サトウキビ・タバコ・藍などの輸出向け作物栽培を低賃金で栽培させた。生産物は植民地政庁が独占的に販売した。

イ 強制栽培制度によってジャワでは主食の米生産が十分にできなくなり飢饉が多発した。

ウ ジャワ島では1870年、成長してきたオランダの民間会社が植民地政庁にかわって経済活動の中心となる原則が確立された。

エ 工業製品や不足する米などの食糧は輸入に依存する構造が確立された。

問8 下線部(5)に関して、次のア～エのうち、ラタナコーシン朝に関する出来事の説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 19世紀後半に、チャオプラヤ川下部デルタが輸出向け稲作地帯として開発が進んだ。

イ シャムは第一次世界大戦で戦勝国になった。

ウ 1932年には人民党がクーデターを起こし王家に立憲革命を認めさせた。

エ 立憲革命を成功させたウーヌーは1938年に首相となって日本に接近し、1942年に米・英に宣戦した。

問9 下線部(6)に関して、次のア～エのうち、かつて「保護国」とされた国と、した国の組み合わせとして間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア アルバニアーイタリア

イ エジプトーイギリス

ウ トンガーオランダ

エ モロッコーフランス

世界史

問10 下線部(7)に関して、次のア～エのうち、海峡植民地となったマレー半島の三都市ではないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アンナン

イ シンガポール

ウ ペナン

エ マラッカ

問11 下線部(8)について、次のア～エのうち、この時期のインドネシアの抵抗運動についての説明ではないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア イスラームを基礎に置いて原始共産社会への復帰を理想とするサミン運動が中部ジャワに広まり、納税拒否などの抵抗運動を行った。

イ スマトラ西部ではパドリ派と呼ばれるイスラーム厳格派が中心となってオランダへの抵抗戦争が展開された。

ウ ジャワ中部に知識人、商人層を中心にサレカット＝イスラーム(イスラーム同盟)が結成され独立を掲げるようになった。

エ ジャワ人団体ブデイ＝ウトモが設立された。ブデイ＝ウトモはジャワ語で「最高の英知」を意味した。

問12 下線部(9)について、次のア～カのうち、アジアで最初の共産党が結成された地域を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア インドネシア

イ ヴェトナム

ウ 中国

エ フィリピン

オ マレーシア

カ ミャンマー(ビルマ)

問13 下線部(10)について、次のア～エのうち、日本統治下の東南アジア諸地域の様相に関する説明として正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア フランスの対独降伏の1年前から日本が進駐していたフランス領インドシナでは、1941年5月にヴェトナム独立同盟が結成され、抗日武装闘争を展開した。

イ 1942年3月に首都ラングーン(ヤンゴン)、5月にはほぼ全域が占領されたビルマでは、タキン党指導者サヤー＝サンらが当初は日本軍に協力したが、日本軍がビルマに軍政をしくと抗日運動に転じた。

ウ 1942年5月に日本軍によって占領されたフィリピンでは、1934年にすでにフィリピン独立法が成立し、10年後の独立が約束されていた。

エ 1942年3月に日本軍によって占領されたオランダ領インドでは、共産党員が結成したフクバラハップによる抗日武装闘争が展開された。